

	主なご指摘事項（※）	対応方針等
論点整理案に関するご指摘	<ul style="list-style-type: none"> （沢の水生生物等への影響（論点1）について、）<u>沢カルテを環境別に類型化するのがやりやすくなる</u>と思う。 「沢の流量変化」は、トンネル工事によってどのように流量が変化するかというインパクトである。「生息状況」は、流況とか地形とか水質とか、そのインパクトを受け取るべきものが入る。<u>インパクトとレスポンスの関係をきちんと分けて検討していくべき</u>。 （沢の水生生物等への影響（論点1）について、）「水生生物等」からイメージされる魚類、底生魚類、底生動物というようなものに中心が行ってしまうことがかなり心配である。 周辺の水辺林の生物とかなり密接につながらざるを得ないという状況にあるので、全体として、<u>川だけでなくその周辺の水辺林も併せて議論すべき</u>。 施設を造ったときに、必ず河道と陸地間の形状を改変することになる。特に、護岸や根入れなど、そういった構造物が必ず付随することになると思う。その際に、<u>河川に対してその構造がどういう影響を及ぼすのか</u>ということは付帯工事として必ず検討しなくてはいけないテーマだと思う。 排水というのは、それ自体も水循環としては生息場を形成することになる。排水口と本川の接続をどのようにするかによって、湧水に対して依存する生物をここに生息させるというような、そういう観点もあり得るので、<u>排水の合流部の形状をどのようにするか</u>を挙げていただきたい。 論点整理案を情報共有するために専門部会を開き、論点に過不足がないかどうかを確認して、必要に応じてその結果を有識者会議に意見したい。 （注）オブザーバーの発言 	<ul style="list-style-type: none"> 左記のご指摘等を踏まえ、<u>論点整理案を赤字のとおり改訂</u>しております。（資料1-2） 県の専門部会の事務局である静岡県から、「<u>リニア中央新幹線静岡工区有識者会議（環境保全有識者会議）に対する意見について</u>」（1月30日付）として、<u>意見が提出</u>されました。（参考資料1）